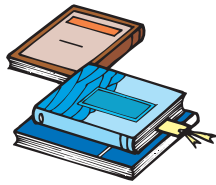


ほんの森

図書館 ☎84-3311



図書館休館日

3月4日(火) 毎週月曜日

日曜映画会

『トムとジェリー ドルーピーといっしょ③』

と き 2月17日(日)

午前10時・午後2時

上映時間 53分

ところ 2階ハイビジョンホール

定員 各回 先着100名

※整理券は不要です



図書館ギャラリー

『ポタニカル・アート展』

2月23日(土)～3月30日(日)

金曜映画会

『野菊の墓』

と き 2月22日(金)

午後2時から

上映時間 1時間13分

ところ 2階ハイビジョンホール

定員 先着100名

※整理券は不要です

野菊の墓



文芸

◆俳句

それぞれの抱負を秘めし初句会

浅野 茂子

人の輪をあたためてゐる焚火かな

池田 逸子

残るもの果てるものあり年暮るる

伊藤 敬子

悴むや素足の花魁花道中

今関満喜子

水仙や母の命日白く咲く

魚地 照子

淡き日の流木に差し冬の虫

江森 悦子

原油高目貼りで屁ふ古き家

川島 孝夫

甲府から来たとサーファー冬の海

桑名 大行

生垣の向かふに赤く寒椿

向後 寛

黄昏のくぐる暖簾や師走風

小松 藤男

着ぶくれてかつては村の色男

佐瀬 輝夫

かじかむや一銭銅貨を握りし日

玉虫 栗扇

悴みてたこ焼つゝく昼餉かな

戸村 静華

石榴挽き縄文人思ひ馳せ

布施 和代

春と指でくもりガラスに書初す

山口 一秋

枝の秀に白く乾びし鴉の贅

渡部 和秋

◆短歌

亡き夫が自ら編みて用ゐたる

池田 春江

ベレー帽今も仕舞ひ置くなり

池田 春江

頂きに取り残されし柚の実が

田崎 尚美

輝きゐたり朝の目を浴み

田崎 尚美

冷たき水を幾度流し

永籐 滋

空き缶がカラカラカラと追ひ越しぬ

吉岡 信子

歩みの遅き我の傍を

吉岡 信子

鳥よけに南天被ひしネットをば

青木 秀子

朱の色翻しつづ日の丸は
庁舎屋上に音たてゐたり

西山満里子

台風に荒らされたるも青葱は
曲りし跡を残し伸びゆく

押尾 輝子

夕映えにかもめ群れ飛ぶ利根川の
川口風ぎて隠しかりけり

平山 芳子

久びさに息の妻と来て食事せり
会話の弾み刻を忘れつ

芹川 初子

指触れし芒の絮のいくつかが
茜の空へ飛びてゆくなり

鈴木まさ子

青首の大根の艶われよりも
生き生きとしていのち漲る

佐瀬 初音

吾の言葉聞きてゐるらし飼犬が
四十五度に首を傾げつ

八角 三枝

年の暮やらねばならぬ事数多
抄らぬまま心苛立つ

長谷川正子

然りげ無き友の電話に沈みろし
心やや漸活気付きたり

斉藤つね子